

モノクロから8Kへ 新たなテレビ時代の到来 ～たかがテレビ、されどテレビ～

■ 放送進展の歴史

>モノクロから4Kまでテレビの変遷をふり返ります。

■ 家電の王テレビの経済効果

>家電製品の対GDP比率推移と受信機の位置付け、最近のテレビ市場の動向を俯瞰します。

■ 受信機開発秘話

>長く従事した放送受信機開発関連業務でのこぼれ話をご紹介します

- ・ BS放送受信機（アナログ）
- ・ 地デジ受信機

■ 4K、8Kの動向と今後の展望

>4K、8Kをめぐる業界の最近動向や国の取り組み意向をご紹介します。

日本のテレビは、昭和28年にスタートしたモノクロテレビ放送を皮切りに、カラー化、BS放送のスタート、そして、ハイビジョン化やデジタル化と半世紀を経て大きく進展

その間、放送は、高画質化、高音質化という流れの中での技術進歩、少なからず、日本経済の発展やテレビ文化の発展に貢献。しかし、ここ2年は急速に出荷が減速。

モノクロから8Kへと進展するテレビ放送の歴史を顧みつつ、まさに動き出そうとしている本格的な“放送・通信融合時代”を展望。

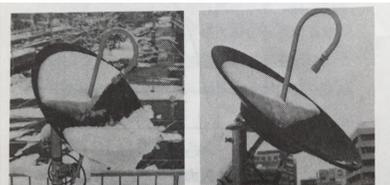


写真 5-2 受信アンテナへの部分着雪

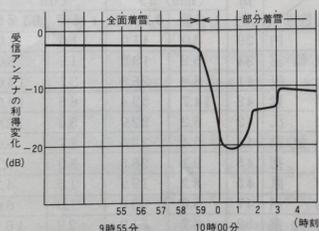
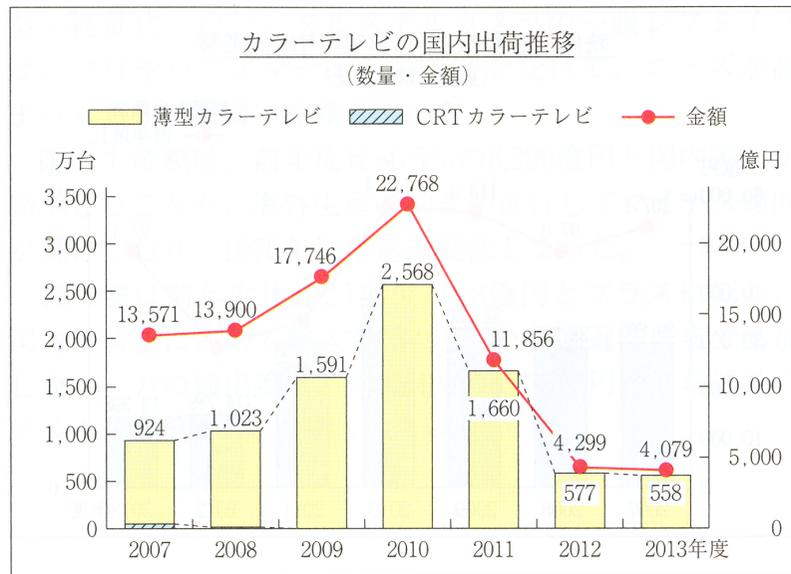


図 5-3 着雪による受信アンテナの利得変化(例)

(着雪とデザインでオフセットへ)

S50 (電気卒) 右田 誠司



4K・8K推進のためのロードマップ



平成26年10月現在 総務省の公表資料「4K・8Kロードマップ」に基づき作成。掲載内容は変更される可能性があります。